

産官学が連携した子育て支援

「よこすかキャリア教育推進事業」(横須賀市)

今、学校など教育の現場では子ども一人ひとりが将来の夢や希望をもてるよう職場体験やインターンシップなどの体験活動を通じて「キャリア教育」を積極的にすすめています。
今号では、横須賀市教育委員会・横須賀商工会議所・横須賀市の「よこすかキャリア教育推進事業」の取り組みから、企業との関わりから子どもの職業観や勤労観を育て、将来に向けて成長する力を育むための支援について考えます。

地域を担う子どもを育てたい

文部科学省では、職場体験やインターンシップの充実を図るため、平成十七年より産官学が連携したキャリア教育を推進しています。

これを受け、横須賀市では同年に、「横須賀市キャリア教育推進協議会」を市教育委員会に設置。横須賀商工会議所(以下、商工会議所)と連携してキャリア教育の推進に向け議論が重ねられました。平成二十年度からは、横須賀市が加わり、市教育委員会、商工会議所の三者で「横須賀市キャリア教育推進事務局」を設置し、「よこすかキャリア教育推進事業」を展開しています。横須賀を担う人

業が、子どもの育ちに関わる理由を話します。

心豊かな人間性を育むために

また、市教育委員会指導主事の望月幸治さんは、子どもたちが置かれている状況と、産業界、教育界、行政が協働で作る取り組みの必要性を次のように話します。

「社会の価値観の多様化等により、自分の良さを見つけられないまま成長している子ども、また、他者と関わる機会が少ない子どもも少なくありません。この取り組みを通して、働く大人と関わりながら、一人ひとりが自分自身の中に価値を見出し、豊かな人間性を持った人に成長できるように努めてもらいたいという気持ちがあります。子どもが学ぶ意欲や目標を持ち生きていく力を育むためには、仕事や職業人にふれる体験を、学校だけに任せるのではなく、社会と作っていく仕組みづくりが必要です」

人と触れ合い、大切にされる経験

事業の一つ「中学生」自分再発見



MTT(写真中央)は、「仕事のやりがい」「働くってどんなこと」等について、子どもたち活発に意見を交わします

ある中学校の自分“再発見”プログラム

- ①市内企業の若手社員(MTT)を交えたグループディスカッション
- ②職業の仕組みを学ぶMTTによるポスターセッション
- ③職業実体験
- ④企業でのインターンシップ
- ⑤まとめのグループディスカッション

見“プロジェクト”は、子どもたちが地元企業の職業人と関わり、働くことの意味や大切さを学ぶことで、生きる力を育むことをねらいとし、市内の中学校を推進校に指定して、(平成二十一年度は五校を指定)進められています。
学校が中心となり作成した具体的なプログラムに基づき、キャリアアコデーネーターが、事業に賛同する地元企業の社員を「わが街横須賀の子どもを育てる先生」マ